

コキアを綾瀬の名物に

一般社団法人代表 種まく



石橋さん(左)と看板を作った寺田さん

綾瀬市早川に今年生まれた「コキアの里」で約150株が見頃を迎えようとしている。福祉関連の一般社団法人「インクルD」の代表・石橋正道さん(56)は人物風土記で紹介している。住民や企業が手を差し伸べた。「新たな綾瀬の名所になれば」と話している。

コキア畑は元々草地で、春に所有者の親族が草刈りを行っていた。それをみた石橋さんが「よかったですね」と提案、快諾し土地を貸してくれたという。コスモスやヒマワリ畑

も考えながら、自身の運営するデイサービス内で以前にコキアを育て、ほろろ加工したことを思い出した。まずは花壇で発芽させ、150株を畑に移植。畑を近隣農家の2人が耕し、近くの県央資源センターが土留めを設置してくれた。「コキアの里」の看板も近くに住む寺田信男さんが流木で手作りした。

「コキアは赤みを増し、見ごろ間近。」との株も形が多種で面白い。住民の方が喜ば最高。今後は種をとって配りたい。綾瀬がコキアの街になれば」と石橋さん。来年も育てる予定で市内の高校にコラボをもちかけているという。場所は早川3091の2、早川地域住民交流館の隣。駐車場がないため徒歩で来場。

人物風土記

題字は綾瀬市長

〇…早川地区の草原を、こんもりした「コキアの里」に変えた。普段は福祉関連の一般社団法人を運営し、綾西パサールで喫茶店も営む。草刈り中の土地所有者に「うちにはやらせてほしい」と声をかけ、酷暑でも草むしりを続けた。その姿を見たのか知人や近隣企業が看板や土留め設置にさりげなく力を添えてくれた。「地域に支えられている。皆さんが喜んでくれる」と目を細める。

働いた経験を生かし、最中。1日の売上が数百様々な人々が集う居場所をつくりたい。夢を4年前に叶えたものの、ちようどコロナ禍の真っ

じぶんの場 育てる人

〇…経営する喫茶店はメダカの水槽が並ぶ、ちよつとした水族館だ。綾瀬高校時代に喫茶店で



●綾瀬市早川にコキアの里を作った

石橋 正道さん

綾瀬市綾西在勤 56歳

た。「今でもきつい時はありますよ」と語る表情が何とも幸せそう。

〇…青春時代は福祉関連の専門学校で学んだ。実習先の障害者施設で天シオンなどを運営する一般社団法人を設立、社員50人の組織に育てた。

〇…いま構想するのが介護支援施設や釣堀、バーベキュー場を備えた「綾瀬村」だ。用地や費用など課題山積だが、2028年開所と周囲に語り、自分を突き動かしている。「綾瀬は観光地も駅もないと言われますが生み出そうという土壌はあるし、私のような変わった事をする「変人」だらけ」。何でもありの地に来年は高校生とコキアを育てる構想。さあどんな芽が顔をだすのか。